

ハイフレックス授業実施ガイド (入門編) - 前編

ハイフレックス授業の導入の概要について

文京学院大学
情報教育研究センター
ふじみ野キャンパス

ハイフレックス授業実施ガイド(入門編)

ハイフレックス授業の概要



現在のオンライン授業の状況とハイフレックス授業についての概要を説明します。

01

ポイント:

ハイフレックス授業は、特殊な授業体系や特殊な機材を活用した授業体系ではなく、既存の方法の組み合わせによる「教育方法の転換」の一つの方法である。

ハイフレックス授業実施ガイド(入門編)

ハイフレックス授業の概要

状況の整理

- 2020年度 -

今年度の状況

対面 ←—————→ オンライン

対面授業



コロナ前の日常

コロナウイルスの蔓延に伴う
強制的なDXの実施

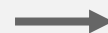
「オンラインの旨み」を実感
「対面の良さの」喪失感

本来DXが進むべき方向

対面・オンラインの良いところ取り
用途毎に方法を選択すべきだった

同期型授業

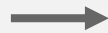
LIVE



場所の縛りからの解放

非同期型授業

REC



時間の縛りからの解放

授業の類型（同期型授業）

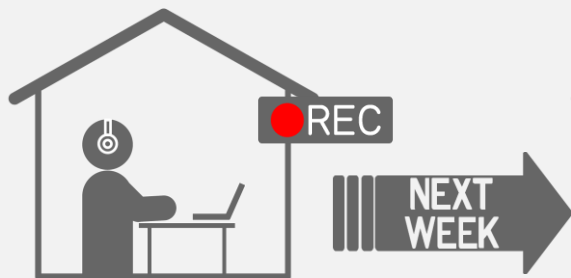


全ての授業を「オンライン会議」の様な仕組みを利用し、授業を配信する。
教員の設定した時間に受講する必要がある。
教員と学生のリアルタイムでのやり取りを行う事が可能。

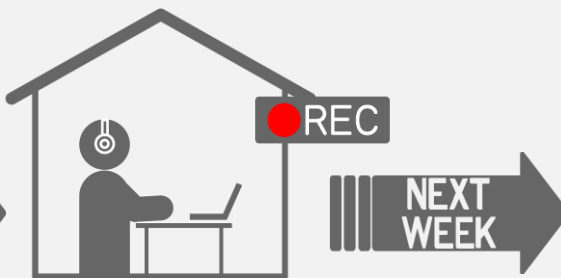
大人数の授業では双方向でのやり取りは授業設計上難しい。
ネットワークトラブルが発生した場合等の対応を事前に検討しておく必要がある。

授業の類型（非同期型授業）

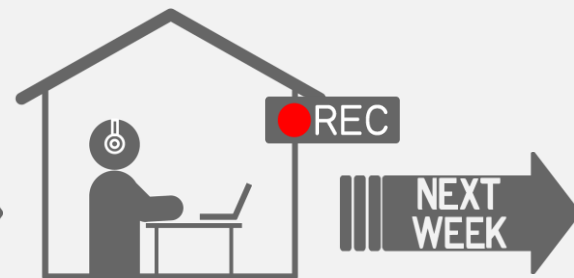
第1週目授業



第2週目授業



第3週目授業



全ての授業を「ビデオや資料等にまとめ」配信する。
学生は定められた期間に指定された方法で授業を受講する。
学生は都合の良いタイミング・環境で受講することが可能。

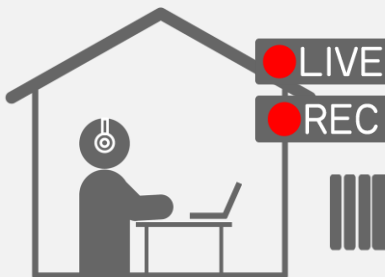
授業資料を繰り返し見ることが出来る等、学生側にメリットがある反面、学習に自主性のない学生のドロップアウト対策を別途考える必要がある。

授業の類型（ブレンデッド型授業）

第1週目授業



第2週目授業



第3週目授業



必要に応じて授業回毎に「対面授業」「同期授業」「非同期授業」等を選択して実施する。
授業内容・教育効果を検討して実施できることから効率の良い授業計画が可能。

授業の類型（ブレンデッド型授業の変形）

第1週目授業



第2週目授業



第3週目授業



いわゆる反転授業

1回分の授業を「2分割（前半・後半）」して考え、前半を自宅での「事前学習」、後半を「対面授業」として授業設計を行う。事前学習には非同期型授業の手法を用いる。知識の伝授は非同期型の事前学習に配当する分、対面授業では理解を深める学習に特化することができる。

授業の類型（ブレンデッド型授業の変形）

第1週目授業



第2週目授業



第3週目授業



通常の対面授業を録画（もしくは授業内容をまとめた教材）を「授業後」に展開する。授業にて理解が深まらなかった学生が「理解できるまで授業を繰り返し受講」する手段を提供することにより、学習の習熟を期待することができる。

一般的なアンケート等の結果によると、コロナ禍によるオンライン化に対し、学生から肯定的な評価を得ている理由の多くは「繰り返し視聴することができる」点であったことから学生の授業満足度を高める可能性が高い。

ハイフレックス授業実施ガイド(入門編)

ハイフレックス授業の概要



これから必要なこと

- 2021年度 -

授業の類型（分散型授業：グループ分散）

第1週目授業



第2週目授業



第3週目授業

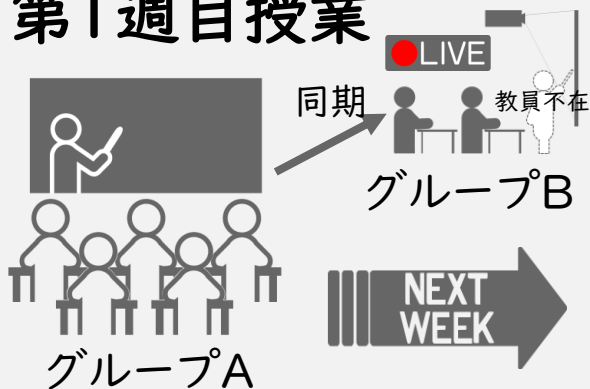


クラスの学生を複数のグループに分け、一方は対面で通常授業、一方は同期授業や非同期授業等を実施する。（同じ週にすべてのグループが同じ授業を行う必要はない。授業期間を通して、すべての学生が同じ内容を受講できる必要はある。）

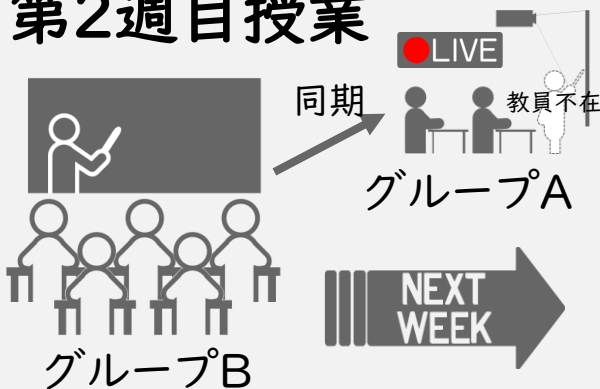
限られた実験機材を使用するような授業の場合、実験機材を使用するような授業を対面、事前授業をオンラインで行うような場合は非常に有効。

授業の類型（分散型授業：教室分散）

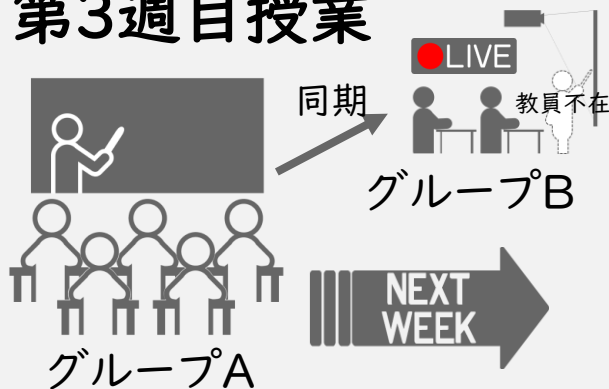
第1週目授業



第2週目授業



第3週目授業



クラスの学生を複数のグループに分け、一方は対面で通常授業、一方は映像伝送受けた別教室で授業受講する。登校させたいが、教室の収容人数等の問題から単一教室に収容できない場合に用いる手法。既に「複数キャンパスの学生を対象とした授業」で実施している「TV会議システムを用いた授業」と同じ考え方である。

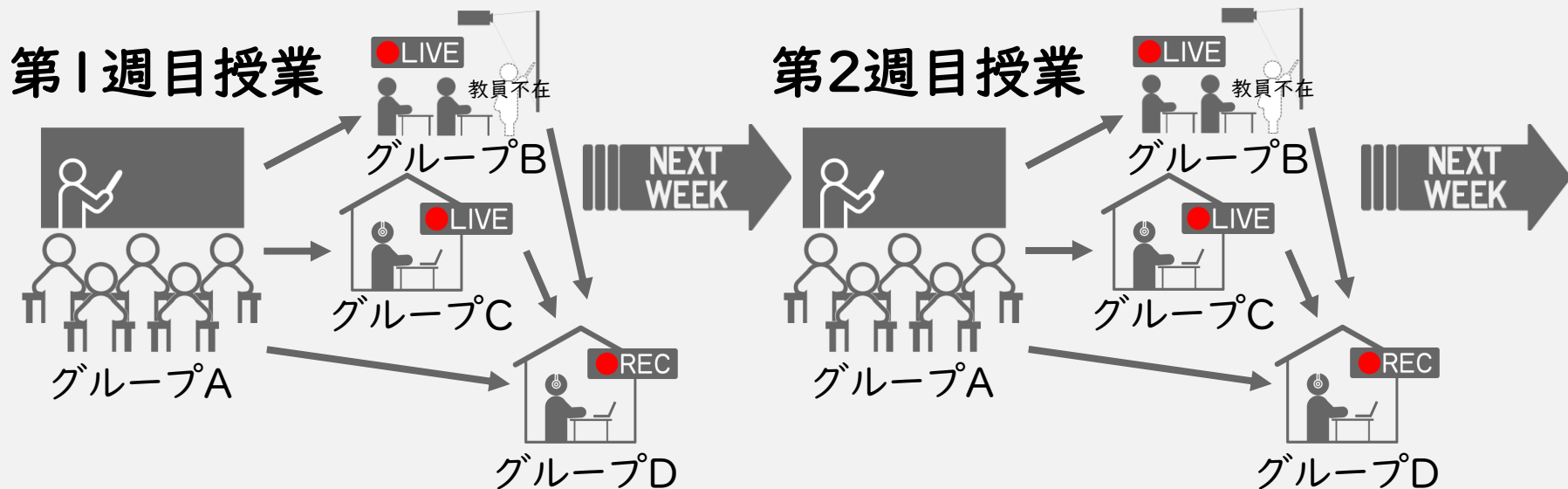
ハイフレックス授業実施ガイド(入門編)

ハイフレックス授業の概要



コロナ後に向けて 教育のDXの実現

授業の類型 (ハイフレックス型授業)



教室分散型授業・グループ分散型授業を同時に行うのと同様です。

教員目線であれば、**教室分散型授業**と「**ほぼ一緒**」の授業運営となります。

学生目線だと、受講しやすいスタイルでの授業受講機会を得ることができる上に、授業コンテンツの復習利用も可能となる為、学生からの評価は高くなると推測されます。

授業の類型 (ハイフレックス型授業)

教室



- ・ 対面授業を実施
- ・ 授業内容を同期送信
同期授業と考えれば、
送信は授業風景ではなく、
スライド資料と音声等で可
- ・ 同期授業内容を録画

教室



- ・ 分散教室で受講
通常の同期授業と同じ
キャンパス横断型授業に近い感じ

自宅



- ・ 自宅で受講
通常の同期授業と同じ

教室分散型授業・グループ分散型授業を同時に行うのと同様です。

教員目線であれば、**教室分散型授業**と「**ほぼ一緒**」の授業運営となります。

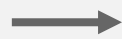
学生目線だと、受講しやすいスタイルでの授業受講機会を得ることができる上に、授業コンテンツの復習利用も可能となる為、学生からの評価は高くなると推測されます。

授業の類型 (ハイフレックス型授業)

教室



- ・ 対面授業を実施
- ・ 授業内容を同期送信
同期授業と考えれば、送信は授業風景ではなく、スライド資料と音声等で可



教室・自宅



自宅



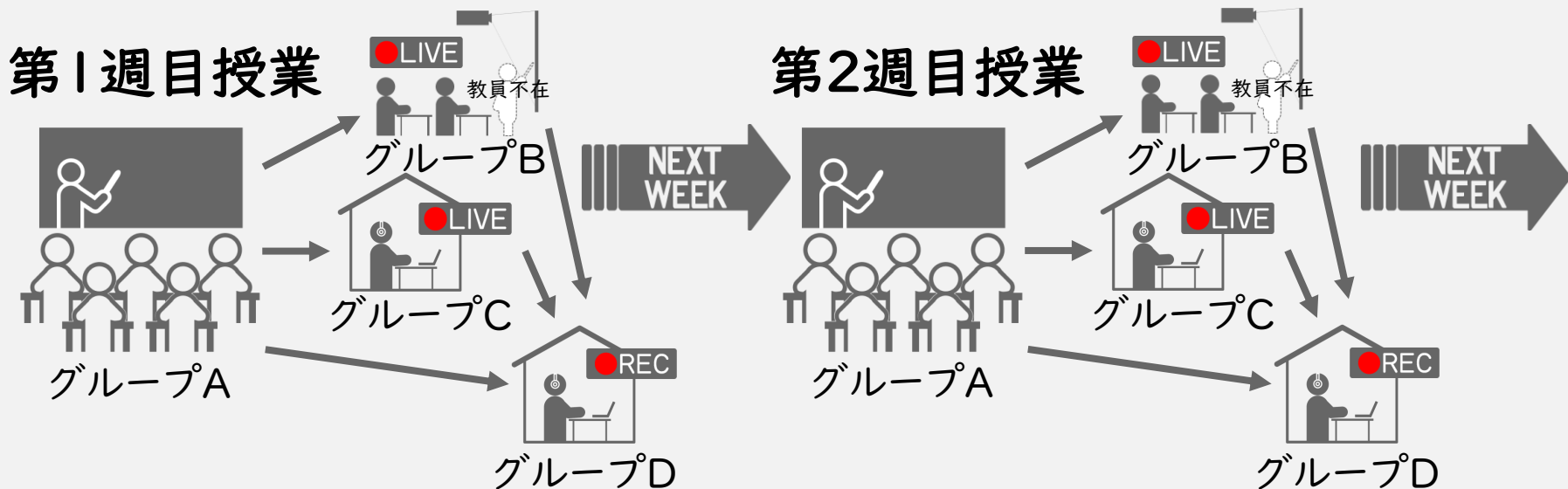
- ・ 授業後・自宅で受講
通常の**非同期授業**と同じ
同期授業を受けた学生の**反復学習用**に活用可能

教室分散型授業・グループ分散型授業を同時に行うのと同様です。

教員目線であれば、**教室分散型授業**と「**ほぼ一緒**」の授業運営となります。

学生目線だと、受講しやすいスタイルでの授業受講機会を得ることができる上に、授業コンテンツの復習利用も可能となる為、学生からの評価は高くなると推測されます。

授業の類型 (ハイフレックス型授業)



教室分散型授業・グループ分散型授業を同時に行うのと同様です。

教員目線であれば、**教室分散型授業**と「**ほぼ一緒**」の授業運営となります。

学生目線だと、受講しやすいスタイルでの授業受講機会を得ることができる上に、授業コンテンツの復習利用も可能となる為、学生からの評価は高くなると推測されます。

授業の類型 (ハイフレックス型授業)



ハイフレックスは教育システムではなく
教育に対する考え方である

教室分散型授業・グループ分散型授業を同時に行うのと同等です。

教員目線であれば、**教室分散型授業**と「**ほぼ一緒**」の授業運営となります。

学生目線だと、受講しやすいスタイルでの授業受講機会を得ることができる上に、授業コンテンツの復習利用も可能となる為、学生からの評価は高くなると推測されます。

ハイフレックス授業の概要

ブレンデッド・ハイブリッド
ハイフレックス

実施時の問題点・注意点

これらの授業類型の問題点

ある学生の時間割を考えます

学生は1限・4限に対面授業があるので、終日学校に滞在する必要があります。

【問題点】

2限中の滞留場所が学内に必要です。

コロナ禍にあって、学内の滞留場所は制限されています。

3限を学内で受講する必要があります。

PCの持ち込みが必要。

学内ネットワークは多数の動画閲覧は想定していない。

	月曜日
1	〇〇演習 (対面授業)
2	□□理論 (非同期授業)
3	××理論 (同期授業)
4	△△実験 (対面授業)
5	

ある学生の時間割の例

関連する授業全体で時間割を考える？

「対面・同期型・非同期」を組み合わせる？

ハイフレックス授業実施時の注意

- **同期型**は「学生の責によらず**受信できない場合あり**」
インターネット回線の輻輳等で受信できない場合もあります
障害が発生したことの証明は現実的には不可能です
※ プロバイダー等でも証明を行わないのが一般的です

同期型授業を実施する場合は
保険（録画）を掛けるようにしてください

ハイフレックス授業実施時の注意

▣ 教室内に複数の端末を用意する場合

マイク・スピーカーを有効にするのは1台のみ
複数台有効にするとハウリングします

教員側が複数持ち込む際は要注意

学生もスマホからアクセスのリスクあり

「教室内からアクセスする場合は、マイク・スピーカーオフにすること」
等とアナウンスが必要

ハイフレックス授業実施時の注意

- **カメラで撮影して送出する場合**
 - ホワイトボードを撮影する場合
蛍光灯の反射等で**映りが悪い場合があります**
定期的に送出側の映像を確認してください
 - スライドを送出する場合
プロジェクターの映像をカメラで撮影するのではなく
PCの画面を送出してください

カメラ撮影には得意・不得意があります
デジタル情報で送出できるときはデジタルで



文京学院大学